講師用進行要領（台本）目次

くらしを支える税金 – 高校公民科資料

1. 生活に関わる税　　　　　　　　　　　P2

2. 税金の種類　　　　　　　　　　　　　P3～4

3. 人生の出来事と税　　　　　　　　　　P5～6

4. 消費税の納め方　　　　　　　　　　　P7

5. 世界の消費税　　　　　　　　　　　　P8～9

6. 税金の流れと納め方　　　　　　　　　P10

7. ふるさと納税　　　　　　　　　　　　P11～12

8. 一人当たりの教育費　　　　　　　　　P13

9. 税金の使われ方　　　　　　　　　　　P14～17

10. 一日の中での税金の使われ方　　　　P18～19

11. 納税の義務とは　　　　　　　　　　P20～21

12. 町に橋をかけよう　　　　　　　　　P22～23

13. 税の公平性　　　　　　　　　　　　P24～25

14. 税金の使いみちの決め方　　　　　　P26

15. 税の使い道を考えよう　　　　　　　P27～28

16. 日本村の予算を作ろう　　　　　　　P29～31

17. 国の予算を見てみよう　　　　　　　P32～34

18. 国の財政を見てみよう　　　　　　　P35～36

19. 財政の悪化　　　　　　　　　　　　P37～38

20. 社会保障費の増加　　　　　　　　　P39～40

21. 増え続ける社会保障費　　　　　　　P41～42

22. 日本の借金の状況　　　　　　　　　P43～47

23. 給付と負担のバランスとは　　　　　P48～49

24. プライマリーバランスとは　　　　　P50～51

25. 累進課税とは　　　　　　　　　　　P52～53

26. 税を通して選挙を考えよう　　　　　P54～56

27. 日本の将来と税金を考える　　　　　P57～59

## 生活に関わる税（INDEX1：所要時間 3分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**みなさんは「税金」と聞いて、どんなことを思い浮かべますか？  
おそらく、「大人が払うもの」「自分にはまだ関係ない」と感じている人が多いかもしれません。

でも実は、税金は**みなさんの生活のすぐそば**にあるんです。

### 【画像を見ながら説明】（1分30秒）

**講師：**こちらの図を見てください。  
ここには、**わたしたちの暮らしの中にある税金**が、いろいろ描かれています。

税金は「安心して生きるための土台」になっているんですね。

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**みなさんが普段、意識していないところで、  
税金は**静かに、でも確実に**社会を支えています。

これからの授業では、「どんな税金があるのか」「どうやって集められ、使われているのか」など、  
より深く学んでいきます。

**さあ、一緒に“生活と税金”のつながりを探っていきましょう。**

## 税金の種類（INDEX2：所要時間3分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**前の時間では、税金がどんなふうに生活に関わっているかを見てきました。  
では、その「税金」には、どんな種類があるのでしょうか？

今日は、主な**税の種類**について整理していきます。

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**こちらの図では、税金を大きく**2つ**に分けています。

🔷 **直接税（納める人と負担する人が同一）  
・所得税**：働いて得たお金にかかる税金

**・法人税**：会社の利益にかかる税金

🔷 **関節税（納める人と負担する人が異なる）  
・ 消費税**：買い物をしたときにかかる税金

🔶 **都道府県や市町村に納める税金（地方税）**例：

* **道府県民税、市町村民税**：その地域に住んでいる人が納める税
* **固定資産税**：土地や家を持っている人にかかる税
* **自動車税**：車を持っている人が納める税

ポイント：  
同じ“税金”でも、**誰が集めて、どこで使うか**によって「国税」か「地方税」に分かれるということです。

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**税金にはいろいろな種類があって、それぞれ**役割や集め方が違う**ことが分かりましたね。

みなさんが将来働いたり、暮らしたりするときにも、  
この「税の種類」を知っておくと、きっと役立ちますよ。

## 人生の出来事と税（INDEX3：所要時間10分）

### 【導入】（1分）

**講師：**「みなさん、こんにちは。今日は“税金”について、ちょっと面白く学んでみましょう。  
突然ですが、これから皆さんの“人生”を年表にしてもらいます。  
そこに、自分の経験や将来の出来事を想像して、どんな税金が関係してくるのかを考えてみましょう。」

### 【ワークの説明】（1分）

**講師：**「今、画面には『10歳・20歳・30歳…』と年齢が並んでいます。  
そして下には『初めての買い物』『就職』『結婚』『家を買う』『遺産相続』など、いろんな“人生の出来事”カードがあります。

👉 **カードをドラッグして、適切だと思う年齢のところに置いてください。**👉 その下にある欄に、『この出来事には、どんな税金が関係しているか』を書き込んでください。

例を挙げると…

* 「車を買う」→ 30歳あたり？ → 『消費税・自動車税・自動車取得税』などが考えられますね。」

### 【ワーク】（5分）

**講師：**「では、今から5分間、実際にやってみましょう！  
　分からなければ、友達と相談してもOKです。」

※生徒が操作を始めるタイミングで、以下を補足しても良い。

* 「“出産”にはどんな税が関係していると思う？」
* 「“起業”したら、払う税は一つじゃないかも？」

【講師は巡回・声かけ】

### 【振り返り・共有】（2分）

**講師：**「はい、そろそろ時間です。  
いくつかの年齢と出来事に注目して、みんなで見ていきましょう。」

（例）

* 「40歳で“家を買う”→ 不動産取得税や登録免許税」
* 「60歳で“退職”→ 退職所得と所得税の話」

「みなさんが考えた税金は、どれも正解の一部です。  
人生の節目ごとに、いろんな形で税金が関わってくるんですね。」

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**「税金というと、“大人になったら払う面倒なもの”と思いがちですが、  
実は、人生のどの場面にも関わってきます。  
将来、自分がどんな人生を歩むとしても、“税”はその社会を支えるしくみとして大切なものです。

これからも、自分の生活と税のつながりを意識してみてくださいね！」

## 消費税の納め方（INDEX4：所要時間 3分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**みなさんが日常で一番身近に感じる税金といえば、やはり**消費税**ですよね。  
コンビニでお菓子を買うと、レシートに「消費税」が表示されています。

でも、その**消費税って、どうやって国に納められているのか**考えたことはありますか？

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**この図では、消費税の流れが説明されています。

1. 買い物をする人（わたしたち）が、お店で商品を買います。  
   　たとえば、1,000円の商品に100円の消費税が加わって、**合計1,100円**を払います。
2. その100円は、お店の人のものになるわけではありません。  
   　お店は、**預かった消費税**を、後からまとめて**税務署に納める**んです。

📌 ここがポイント！  
➡ 消費税を**実際に払っているのは消費者**ですが、  
➡ それを納める役割を持っているのはお店（事業者）です。

つまり、お店の人は「消費税を預かって、責任を持って納める」という役目を果たしているんですね。

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**消費税は、ただ払うだけでなく、「誰がどうやって納めているのか」を知ることで、  
社会のしくみが見えてきます。

今度買い物をしたとき、レシートの「消費税」の欄を、少しだけ意識してみてくださいね。

## 世界の消費税（INDEX5：所要時間 4分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**

みなさん、普段の買い物で「消費税」を意識していますか？  
日本では10％の消費税がかかっていますが、実は世界にはもっと高い国や、低い国もあります。  
今日は、世界の国々の「標準的な消費税率」をグラフで見て、ちょっと考えてみましょう。

（画面を表示：「世界の消費税率」棒グラフ）

### 【画像を見ながら説明】（3分）

**講師**

まず、日本を探してみてください。どこにあるでしょうか？  
そう、ピンク色のバーで表示されていますね。日本は10％です。

では、**最も高い国**はどこでしょうか？  
…正解はハンガリー（27％）です。

このグラフ、平均を見てみると**17.7%**。  
つまり、日本は世界的に見ると「低いほう」に入ります。

みなさんはどう思いますか？  
「税金が高い＝悪いこと」でしょうか？  
逆に「税金が低ければ生活がラク」になるのでしょうか？

（生徒の意見を数名に聞く）

「解説」を押下。見てみましょう。平均税率は17.7％です。

「消費税は私たちの**老後や地域を支える**ために使われている」  
日本の税金の一部は、**年金や医療、介護サービスのため**に使われています。

高齢化が進む日本にとって、こうした使い道はとても重要なものです。

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**

・なぜ北欧は税率が高いのか？  
・高い税率でも、生活に満足できる理由って何だろう？

・世界と日本の税率を比較してみると、「高い・低い」だけではなく、「どんな社会を目指しているのか？」という視点も大事になってきます。

・税率が高い国は、その分、教育・医療・福祉が**無料または安価**という特徴があります。

・みなさんは、日本の税率について、どう感じましたか？  
・税金は、ただ集めるものではなく、**「何に使うか」が大事**なんですね。

・みなさんがこれから社会に出ていく中で、**税金をどう考えるか**はとても大切なテーマです。  
ぜひ、今日の授業をきっかけに、身近な社会やニュースにも注目してみてください。

## 税金の流れと納め方（INDEX6：所要時間3分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**前回までに、税金がどのように集められ、使われているのかを見てきましたね。

今回は、「税金が実際にどうやって流れていくのか」、その**全体の流れ**を確認します。

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**① 納める人（国民）**まず、わたしたちが税金を払います。  
消費税のように買い物を通じて払ったり、所得税のように給料から引かれたりします。

**② 集める人（国や自治体）**そのお金は、国や市区町村などの**税務機関**に集められます。

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**税金は、ただ集めて終わりではありません。  
「どう集めて、どう決めて、どう使うか」という**一連の流れの中でこそ意味がある**んです。

集めた税金をどう決めてどう生かすかについてはこの後で学んでいきます。

**INDEX7：「ふるさと納税」（所要時間：7分）**

### 【導入】（30秒）

**講師：**「今日は、“ふるさと納税”について考えてみましょう。  
最近では、ニュースやSNSなどで“ふるさと納税の返礼品”が話題になることもありますね。  
例えば、“高級肉”や“特産フルーツ”など…。でも、実はこれ、単なるプレゼントではありません。  
制度のしくみや課題について、少し深掘りしてみましょう。」

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**「この教材にあるように、ふるさと納税とは、**自分の住んでいる自治体ではなく、好きな自治体に寄附をする**ことで、  
本来納めるべき住民税などが“控除”される制度です。  
たとえば、北海道のある町に10万円を寄附して、お礼にカニが届いた…という話もよく聞きますね。

でも、ここでちょっと立ち止まって考えてほしいのは、誰が得をして、誰が困っているのか？という視点です。

そこで、3つの立場からふるさと納税を考えてもらいます。」

### 【活動】（3分）

**講師：**「みなさんには、以下の3つの立場に立って、それぞれの“メリット・デメリット”を自由に書いてもらいます。」

* ① 寄附者（ふるさと納税をする人）
* ② 寄附を受ける地方自治体
* ③ 寄附者の住んでいる地方自治体

「例も書いてありますが、自分の意見を加えてみてくださいね。  
“正解”はありませんので、感じたこと・気づいたことをそのまま書いてOKです。」

（記入中の声かけ例）  
「寄附する人の気持ちってどうだろう？」  
「税金が本来行くべき自治体には、どんな影響がある？」

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**「では最後に、少しだけ意見を聞いてみましょう。」

（全体共有の例）

* 「お礼の品は魅力的だけど、ちょっとずるい気もする…という声もありました。」
* 「寄附を受けた町が地域を盛り上げられるのはすごくいいという意見もありました。」

**講師：**「ふるさと納税は、地域活性化に貢献する面もある一方で、  
もとの自治体が“住民税収”を減らしてしまうという課題もあります。  
税の制度も、“自分の選択”が将来の地域にどう影響するかを考えるヒントになります。」

## 一人当たりの教育費（INDEX8：所要時間3分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**皆さんが通っているこの学校。  
教科書、机、体育館、先生の給料、冷暖房……  
これらの費用がどこから出ているか、考えたことはありますか？

### 【画像を見ながら説明】（2分）

（3つのイラスト：小学生・中学生・高校生の費用に注目）

**講師：**これは、**1年間で1人あたりに使われている税金の額**です。

* **小学生：94万円**
* **中学生：109万円**
* **高校生：113万円**

つまり、皆さん1人ひとりのために、  
役**100万円の税金が使われている**ということなんです！

ポイント：  
➡ 学びの環境は、**多くの税金によって支えられている**という事実です。

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**何気なく過ごしている学校生活も、実は**社会全体の支えの上に成り立っている**んですね。

将来、皆さんが社会に出たときに、  
「自分が納める税金が、教育費として次の世代を支えている」と思えると素晴らしいと思いませんか？

## 税金の使われかた（INDEX9：所要時間15分）

### 【導入】（30秒）

「ここまで、税金の“集め方”について学んできましたが、今度は“使い道”について考えてみましょう。」

「タイトルにあるとおり、『税金はどんなところに使われているだろう？』…身のまわりで見つけられそうですか？」

【画像を見ながら説明】（6分）

左側ボタン、「町のどんなところで税金が使われているか見てみよう！」

#### 1. 導入①

「ここまでで、税金がいろんな場所で使われていることを学んできました。」

「さあ、今度は“みんな自身の目で”街の中を探してみましょう！」

#### 2. ページの使い方説明

「このページは、街のイラストの中にたくさんのアイコンがあって、どこに税金が使われているかをクリックして探すことができます。」

「正解の場所をクリックすると、説明がポップアップで表示されるようになっています。」

「間違った場所を押すと…✖マークが出ます」

#### 3. 探索タイム（生徒参加型）

「ではやってみましょう！ 何か見つけた人は挙手して教えてください。」

（生徒：「図書館！」「消防署！」「コミュニティバス！」など）

「おー、よく見つけましたね。どれも税金で支えられているんですよ！」

#### 4. 意図的に“間違い”にも触れる

「逆に、これは税金じゃないかも？ というのも探してみよう。」

（生徒：「ホテル？」「クルーズ船？」→ ✖マーク表示）

「こういう“民間のもの”は通常、税金ではなく企業のお金で動いていることが多いですね。」

#### 5. 振り返り

「こうして見ると、税金は“目に見える形”で私たちの生活の中にたくさん存在しているんだとわかりますね。」

「道路、学校、警察署、ゴミ収集車、文化ホール…本当にたくさんあります。」

#### 6. まとめとつなぎ

「学んだことを思い出してみてください。」

* 税金はなぜ必要？
* 誰が払っている？
* どんなところで使われている？
* 公平ってなんだろう？

このページは**実体験を通じた気づき**を得る絶好の機会です。  
必要であれば、探した場所をワークシートに記録させることで学習の定着をさらに促進できます。

#### 7. 導入②

右側ボタン「みんなの県で税金が使われているところを探そう！」

「地図や写真が出てくると思います。そこに税金の使われている場所がいろいろ登場しますよ。」

「次のページでは、実際に地図上のいろんな場所をクリックして“税金が使われている場所”を探す活動ができるようになっています。」

「自分のまちや、学校の近くに置きかえて考えてみると、もっとリアルに感じられるかもしれません。」

「さあ次は、もっと“身近な場所”を見ていきます。」

「●●県にはいろんな市や町がありますよね。実はそれぞれのまちで、“税金の使われ方”がちがうんです。」

#### 【画像を見ながら説明】（5分）

「画面を見てください。●●県の市町村名が並んでいます。」

「どれかをクリックすると、そこにある“税金で作られた施設”が表示されます。たとえば、●●市では◯◯、●●町では□□など。」

#### 探索タイム（3〜4分）

「自分の住んでいるまち、または知っているまちをひとつ選んで、そこで見つけた“税金でできた施設”をメモしてね！」

（各自 or ペア活動）

「見つけた人は挙手！ どんな施設があった？」

「図書館！」「文化ホール！」「温泉施設も！」

「じゃあ、なぜそのまちでは“その施設”を作ったんだろう？」

「観光のため？ 子どものため？ 高齢者のため？」

「市町村によって“必要な支出”って違うんですね。税金は、それぞれの地域の課題や目標にあわせて使われているんです。」

まとめ

最後に、見つけた施設の中からひとつを選んで、『なぜ必要だったのか』を一言でまとめてみよう！」

「たとえば、“図書館→みんなが学べる場だから”みたいにね。」

### 【まとめ】（30秒）

「税金って、ただ“払わされるもの”じゃなくて、“自分たちの生活を支える大切なものなんですね。」

「それを実感するために、次は実際に地図やイラストを見ながら、どこに税金が使われているかを探してみましょう！」

## 一日の中での税金の使われかた（INDEX10：所要時間3分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**これまで税金が使われている「場所」や「施設」について見てきましたが、  
今回は、もっと身近なところに目を向けてみましょう。

今回のテーマは、「一日の生活の中で、税金はどう使われているか？」です。

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**こちらの図は、**ある中学生の1日**を例にして、  
どのタイミングでどんな税金が使われているかを示しています。

🕘 **朝：学校へ登校**

* 通学路の**道路整備や信号機**には税金が。

🕙 **午前：授業を受ける**

* 教科書は無料で配付されていますよね。
* **机、椅子や冷暖房費、学校設備**も税金です。

🕓 **放課後：部活や病院へ**

* 部活で使うグラウンドや体育館も公共施設。
* 万が一ケガをしても、**医療制度**で安心して治療が受けられます。

🕖 **夜：家庭で過ごす**

* 家の**上下水道や電気の整備**、夜間の安全を守る**街灯や警察**にも税金が活躍。

ポイント：  
➡ 税金は「特別なこと」ではなく、**私たちの毎日に自然と組み込まれている**存在なんです。

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**このように、みなさんが何気なく過ごしている1日も、  
税金によって“安心”と“安全”が守られているんですね。

次に何か「当たり前のこと」を見たとき、  
「これって税金が支えてくれてるかも？」と考えてみてください。

## 納税の義務とは？（INDEX11：所要時間6分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**ここまで税金が「生活を支える仕組み」であることを学んできました。  
では、私たちはなぜ税金を払うのでしょうか？  
今回のテーマは「納税の義務」です。

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**このページには、「納税の義務」という言葉が出てきます。

これは、実は日本国憲法の**第30条**に書かれている、  
**国民の三大義務**の一つです。

🟢 三大義務とは？

1. **教育を受けさせる義務**（第26条）
2. **勤労の義務**（第27条）
3. **納税の義務**（第30条）

つまり、「税金を納めること」は、  
単なるルールやルール違反の話ではなく、**国民としての基本的な役割**なのです。

ポイント：

* 税金を納めることで、社会全体が支えられる
* 自分もその「支える側の一員」になることが、義務であり、責任でもある

### 【問いかけと対話】（3分）

「じゃあ、もし“みんなが税金を納めなかったら”…どうなると思う？」

（→ 生徒から意見を引き出す。「道路が直せない」「学校が運営できない」など）

「そう。みんなで社会を支える“仕組み”として、税金はなくてはならないものなんです。」

「“義務”って聞くとちょっと重く感じるかもしれませんが、納税は“社会に参加する”ということでもあるんですよ。」

「税金を納めることで、自分たちの生活や未来に関わっていける。そう考えると、ちょっと違って見えませんか？」

「そして、公平感（納得感）が重要となります。」

### 【まとめ】（30秒）

「このページでは、“納税の義務”について考えました。社会を支えるのは国や政治家だけではありません。」

「私たち一人ひとりが、その仕組みに関わっているんだということを、これからも意識していきたいですね。」

## 町に橋をかけよう！（INDEX12：所要時間15分）

### 【導入】（1分）

**講師：**「今日は、税金の“集め方”について、みなさん自身で考えるワークをやってみます。

舞台は“メタバタウン”という小さな町。そこに住む3人が、**町の橋をかけ直すために、300万円の費用を出し合う**ことになりました。

でもここで問題。  
3人の収入はバラバラ。  
・Aさんは 700万円 ・Bさんは 250万円 ・Cさんは 50万円

この3人が“どんなルールで”お金を出し合えば「公平」と言えるでしょうか？」

### 【ワークの説明】（2分）

**講師：**「みなさんには、実際に【税の3つの集め方】をシミュレーションしてもらいます。」

画面のプルダウンから次の3つのルールを選べます：

* **Ⅰ案：固定方式**（みんな同じ額を出す）
* **Ⅱ案：比例方式**（収入に応じた割合）
* **Ⅲ案：累進方式**（収入が多い人ほど多めに負担）

「まずはこの3つのルールを選んで、それぞれ誰がいくら負担するかを確認してみましょう。

そのあと、『自分が“これが公平だ”と思う金額』に自由に入力して、3人の残りのお金の変化も確認してみてください。」

※この間に、生徒は表を操作して「収入・負担・残り」を確認。

### 【ワーク】（5分）

**講師：**「ここまでで、3つの案を試してみました。  
今度は、自分なりの“案”や“考え”を入力欄に書いてみましょう。」

* **Ⅰ案・Ⅱ案・Ⅲ案を比べてどう思ったか**
* **どの方式が公平だと思ったか／なぜそう思うか**
* **自分が新しい案を考えたなら、それも書いてOK**

### 【グループ活動】（5分）

**講師：**「では、次に**近くの人と意見交換**してみましょう。」

1. どんな案が出たかをお互いに紹介
2. 気づいたこと・考えが変わったことをメモ
3. 最後に、グループとしての“結論”や“おすすめ案”を話し合って記入欄にまとめましょう。

【アドバイス】

* “Aさんばかり負担が大きいのはどう？”
* “Cさんが少ししか出さないのはズルい？”
* “それでも橋は全員が使うよね？”

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**「では、最後にいくつかのグループの意見を聞いてみましょう。」

（発表例）

* 「累進方式を採用したけど、Aさんにとっては重すぎるのでは、という意見も」
* 「全員が納得できるよう、少しずつ譲り合う案を作ったグループもありました」

**講師：**「税金の“負担のしかた”にはいろんな考え方があります。  
“公平”とは何かを考えることで、私たちが住む社会の仕組みについても理解が深まります。  
今日の活動が、みなさんが将来、納税者として考えるヒントになればうれしいです。」

## 税の公平性（INDEX13：所要時間 5分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**税金には「どう集めてどう使うか」だけでなく、  
「どうやって負担を分けるのが公平か？」という大切なテーマがあります。

「さて、みなさん。“公平な税金”って、どんな税金だと思いますか？」

（→ ざっくり意見を聞いて、「たくさん稼ぐ人がたくさん払う？」「みんな同じ金額？」などを拾う）

「実は、『公平』といっても、税金の世界ではいろんな考え方があるんです。」

このページでは、**“税の公平性”に関する5つの考え方**を紹介します。

### 【画像を見ながら説明】（3分）

（画面上の5つのカードに沿ってテンポよく説明）

🟦 **応能負担（おうのうふたん）**➡ 「**払える人が、より多く負担する**」という考え。  
　たとえば、所得が高い人が多めに税金を払うしくみです。

🟦 **応益負担（おうえきふたん）**➡ 「**サービスを多く受けた人が、より多く負担する**」。  
　高速道路や水道料金のように、使った分だけ払う方式。

🟦 **水平的公平**➡ 「**同じような収入・能力の人には、同じ税金を**」という考え方。  
　不公平感をなくすために大切。

🟦 **垂直的公平**➡ 「**収入が多い人には、より高い税率で**」という考え。  
　所得税の累進課税がこの例です。

🟦 **世代間の公平**➡ 「**今の世代だけでなく、将来の人たちにも負担が残らないように**」という視点。  
　年金や借金の返済に関係する重要な考え方です。

今の高齢者を支えるために、私たち現役世代が税金や保険料を払っている。でもそれって、将来も同じ仕組みが続くのかな…？

未来の人たちに、今の借金や負担を押しつけてしまってないだろうか？

（→ 生徒に問いかけて思考を深める）

### 【まとめ】（30秒）

「自分だったら、どの考え方が一番“公平”に感じる？」

「未来の人のことも考えたら、どんな税制度がいいと思う？」

「税金の“公平性”にはいろんな視点があることが分かりました。」

どれが正解、というよりも、  
**状況や立場によって「公平さ」はいろんな形になる**ことがわかります。

→「みんなが『納得できる税制』を目指すには、こうした視点を持ち、議論していくことがとても大事なんです。」

## 税金の使いみちの決め方（INDEX14：所要時間3分）

### テーマ：「税金の使いみちはどうやって決まるの？」

### 【導入】（30秒）

**講師：**これまで、税金がどんなことに使われているかを学んできましたね。  
でもその使いみちって、**いったい誰がどうやって決めているのでしょうか？**

今日はその「決め方」の仕組みを見ていきます。

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**この図を見てください。  
税金の使い道が決まるまでには、国と都道府県では**少し異なり**ます。

**① 集める**まずは、みんなから税金を集めます。これはすでに学びましたね。

**② 決める**次に、「このお金をどう使うか」を考えるのは、国や地方の政府（行政）です。  
そして、それをチェックして、最終的に決めるのが、**国会や地方議会**です。

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**税金の使いみちは、ただ役所の人が勝手に決めるのではなく、  
**みんなの代表（議員）を通じて、ルールに従って決められている**んですね。

みなさんが将来、選挙で投票するときにも、  
「この人はどんな使い方をするのか」という視点が大切になりますよ。

## 税の使い道を考えよう（INDEX15：所要時間10分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**「皆さん、税金って何に使われていると思いますか？  
道路や学校、病院…いろいろありますね。  
でも、国や自治体の予算には限りがあります。  
つまり、“全部には使えない”んです。

今日は皆さんに、“税金の使い道に優先順位をつける”という活動をしてもらいます。」

### 【ワークの説明】（2分）

**講師：**「画面に9つのカードが並んでいます。たとえば『医療・介護』『子育て支援』『災害対策』などです。

これらを、あなたが『大事だ！』と思う順に並べてみましょう。」

【具体的なルール】

* ①位：1つ
* ②位：2つ
* ③位：3つ
* ④位：2つ
* ⑤位：1つ

「ドラッグして、中央の菱形マークの各順位エリアにカードを置いてください。  
各順位のマスには、決まった数以上のカードは置けないようになっています。」

### 【ワーク】（5分）

**講師：**「それでは、今から3分間、自分の考えに基づいてカードを並べてみましょう。」

（巡回しながら声かけ）

* 「なぜそれを1位にしたの？」
* 「自分の経験や家族のことが影響している人もいるかもしれませんね」

**講師：**「並べ終わったら、その理由を下の欄に書いてみましょう。」

【例】

* 医療を1位にしたのは、高齢化が進んでいるから
* 教育を重視したのは、未来の投資だと思うから

「正解・不正解はありません。“自分の考え”を素直に書いてくれればOKです。」

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**「それでは、いくつかの人に、1位に選んだものと理由を聞いてみたいと思います。」

（指名 or 挙手）

**講師：**「税の使い道は、社会の価値観や優先順位を映す鏡です。  
今日のように“自分の考え”を持っておくことが、将来投票したり、意見を持ったりする力になります。」

## 日本村の予算を作ろう！（INDEX16：所要時間15分）

### テーマ：「日本村の予算を作ろう！〜歳出・歳入のバランスを考える〜」

### 【導入】（1分）

**講師：**みなさんがもし「日本の予算」をつくる立場だったら、どんなふうに税金を使いたいですか？

今回の授業では、**国の歳出（使い道）と歳入（集め方）をバランスよく考えながら、予算を立てるシミュレーション**にチャレンジします。

### 【活動①：歳出を調整してみよう】（4分）

**講師：**まずは「歳出」＝どこにいくらお金を使うか、を考えていきましょう。

画面の左側の表では、「年金」「医療」「教育」「防衛」「公共事業」など、10項目に分かれています。

【声かけ例】：

* 「教育をもっと手厚くしたいなら、何を削る？」
* 「“防衛費”や“借金返済”をどのくらい重視する？」
* 「“その他”や“交付金”にも税金は必要？」

合計額は右下に自動で表示されます。  
今年と来年の変化は、棒グラフ（歳出グラフ）に反映されます。

### 【活動②：歳入を調整してみよう】（4分）

**講師：**次は、「歳入」＝どうやって税金などのお金を集めるか、を考えましょう。

画面の右側には「所得税」「消費税」「法人税」「国債（借金）」などがあります。

【声かけ例】：

* 「借金に頼りすぎていない？」
* 「消費税を上げたら、国民の負担は？」
* 「法人税を下げると企業はどう思う？」

借金の出し入れは、**「借金（国債）」と「借金返済」の差**で自動的に「借金総額の変化」として表示されます。

### 【活動③：バランスを確認しよう】（3分）

**講師：**歳出と歳入の合計が一致しているかをチェックしましょう。

ポイント：

* 画面下のメッセージが「歳出＞歳入」や「歳出＜歳入」だと赤く警告されます
* 「歳出＝歳入」になると、「バランスが取れています🤗」と表示されます！

【声かけ例】：

* 「バランスを取るために、どこを削る？増やす？」
* 「将来のことも考えて、借金は減らしたい？」
* 「この予算は“国民の幸せ”につながるかな？」

### 【まとめ】（２分）

**講師：**税金の使い道や集め方には、**どれも正解はありません**。  
でも、自分なりに「どこを大事にしたいか」「どうすれば公平か」を考えて組み立てることが大切です。

振り返り問いかけ：

* 「どこに一番お金を使った？なぜ？」
* 「どんな考え方で歳入のバランスを取った？」
* 「自分の予算を“未来の日本”にどう役立てたいと思った？」

## ◆ 発展アクティビティ（時間があれば）

* ペアでお互いの予算案を見せ合って理由を語り合う
* 「現実の予算」と自分の予算を比較してみる
* 全体で「理想の日本村予算」グループ案をつくる

## 国の予算を見てみよう！（INDEX17：所要時間15分）

### テーマ：「国・県・市町村、それぞれの“お金の使い方”を見比べてみよう」

### 【導入】（2分）

**講師：**国や地方自治体は、みなさんの暮らしを支えるために、それぞれ独自の予算（歳入と歳出）を持っています。  
今日は「国 → 石川県 → 市町村」の順で、**税金がどんなふうに集められ、どこに使われているか**をグラフで見比べてみましょう。

## ◆ 第1部：国の予算を見てみよう（4分）

### 【画像を見ながら説明】（2分）

🟢【歳入】

* 消費税・所得税・法人税が主な柱
* 公債金収入（＝国の借金）も大きな割合を占めている

🟠【歳出】

* もっとも多いのは**社会保障関係費**
* 次に多いのが**国債費（＝過去の借金返済）**
* 教育・防衛・地方交付税なども含まれている

合計はおよそ115兆円。国レベルの規模感に注目。

### ◉ 考察（2分）

【問いかけ】

* 「国が最もお金を使っているのはどこ？」
* 「なぜ社会保障にこれだけ使っているのだろう？」
* 「国の借金ってどれくらい？どうやって返していく？」

## ◆ 第2部：石川県の予算を見てみよう（4分）

### 【画像を見ながら説明】（2分）

🟢【歳入】

* 「地方交付税」「県税」「県債（借金）」などが中心
* 「国庫支出金（国からの補助金）」も大きな割合

🟠【歳出】

* もっとも多いのは「**災害復旧費（能登半島地震の影響）**」
* 教育費、土木費、公債費も目立つ

合計：約1兆1,101億円。国よりはるかに小さいが、県民の生活に密着した使い方。

### ◉ 考察（2分）

【問いかけ】

* 「石川県が今、一番お金を使っているのはどこ？」
* 「教育費の割合はどう？」
* 「国との違いは何だろう？」

## ◆ 第3部：市町村（例：金沢市と七尾市）を比べてみよう（5分）

### 【画像を見ながら説明】（2分）

（画面の市町村選択から、例として「金沢市」と「七尾市」を選び、歳入・歳出の違いを比較）

🟢【歳入】

* 「市町村税」「地方交付税」「市町村債」など
* 金沢市は**自主財源（市町村税）が多い**、七尾市は**交付税や借金が多い**

🟠【歳出】

* 金沢市：民生費・教育費・土木費にバランスよく支出
* 七尾市：民生費と衛生費（高齢者福祉）に重点

### ◉ 考察（2分）

【問いかけ】

* 「大きな都市と小さな市町村で、どんな違いがある？」
* 「なぜ七尾市は“衛生費”が多いのか？」
* 「人口や地域課題によって、税金の使い道はどう変わる？」

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**国・県・市町村、それぞれ**規模も使い道も違う**ことが分かりましたね。

税金の使い道は、**地域の課題や暮らす人たちのニーズに合わせて変化する**ということです。

「あなたの住む町では、どこに税金を使ってほしいですか？」

## 国の財政を見てみよう（INDEX18：所要時間約3分）

### 【導入】（30秒）

「さあ、次のテーマは『国の財政』です。つまり、日本という国がどれくらいお金を使っていて、どれくらい収入があるのか、という話ですね。」

「このページでは、“歳出”と“歳入”という2つの言葉が出てきます。これ、何を意味しているかわかりますか？」

（→ 少し聞いてから補足）

「歳出は“使うお金”、歳入は“入ってくるお金”のことです。」

【画像を見ながら説明】（2分）

「ここに書いてあるとおり、今の日本は、歳出の方が歳入より多い状態です。」

「つまり…使うお金の方が多い。足りない分はどうするのかというと、“借金”して補っているんです。」

「そしてこの借金のことを“赤字国債”と言います。」

「今、普通国債残高はなんと『1,105兆円』。」

「想像もつかない金額ですね…。これは、国の経済規模である『GDP』の約2倍という状態です。」

「では質問です。みなさん、家計に例えるとどうなると思いますか？『年収500万円の家庭』が『1,000万円以上の借金』をしてるイメージです。」

「この状態がずっと続いていいと思いますか？」

（→ 生徒に問いかけて考えさせる）

「このあとのページでは、他の国と比べて日本の借金がどうなのかも見ていきます。」

### 【まとめ】（30秒）

「つまり、日本は“入ってくるお金よりも使うお金が多い”状態が長く続いていて、その結果、借金がどんどん積み上がっているということです。」

税金だけでは足りず、将来への“つけ回し”が起きているのが今の日本の財政です。

みなさんが大人になるころ、この財政がどうなっているかは、

まさに「これからを担う世代」に関わってくる問題です。

【問いかけ】：

「借金に頼らないために、どんな選択肢があると思いますか？」

## 財政の悪化（INDEX19：所要時間5分）

### テーマ：「財政はなぜ悪化したのか？〜社会保障と借金の増加〜」

### 【導入】（30秒）

**講師：**前回までに、税金の使い道や国の予算の全体像を見てきましたね。  
今回は、**なぜ国の財政が“悪化”しているのか**を、過去と現在の比較から考えていきます。

画面にあるのは、「歳出を税収などでまかなえない状態」を**財政の悪化**と呼び、その背景を解説したページです。

### 【画像を見ながら説明】（2分）

🟢【社会保障費の増加】

* 現在、国の歳出の中で最も多いのが「社会保障関係費」です。
* 内容は、年金・医療・介護・子育て支援などで、**全体の約1/3を占める最大項目**。
* 高齢化が進むことで、これからさらに増えていくと予想されます。

🟠【歳入の不足】

* 一方、税収は経済成長の停滞などの影響であまり増えていません。
* その結果、足りない分は「借金（公債金）」で補っています。
* この公債金は**約6倍にまで増加**し、国の財政を圧迫しています。

### 【過去との比較（1990年と2024年）】（1分）

**講師：**では、1990年と比べてみましょう。  
（ボタン「1990年の歳入・歳出を見てみよう」をクリック）

【画像を見ながら説明】

* 1990年の頃は、まだ社会保障費は少なく、**公共事業や文教科学費**が上位を占めていました。
* 借金の割合も今ほど高くはありませんでした。

それが今では、**社会保障費がトップ、借金が大幅増加**。  
つまり、**国のお金の使い方の“構造”自体が大きく変わった**ということです。

【まとめ】（30秒）

**講師：**税金の使い道は、**社会の変化とともに変わる**ものです。  
ただし、それによって「借金が増える構造」になってしまっているのも事実です。

【問いかけ】：

* 「みなさんなら、この財政をどう立て直す？」
* 先ほどの、「日本村の予算を作ろう！」ではどうなっただろう
* 「税金を増やす？ 支出を減らす？ それとも未来の投資を優先？」

**社会保障費の増加（INDEX20：所要時間5分）**

### テーマ：「高齢化と社会保障費の増加」

### 【導入】（30秒）

## 講師： 税金の使い道の中で、年々大きくなっている分野があります。それは社会保障費です。 今日は、なぜ社会保障費が増え続けているのか、そしてそれが将来どう影響するのかを考えていきましょう。

### 【活動①：日本の高齢化と社会保障費の関係】（2分）

## （ページ「社会保障費の増加」参照）

## 画面には、以下の2つのポイントが書かれています：

## 団塊の世代が75歳以上に → 2025年にはすべて後期高齢者に

## 75歳以上の医療・介護費が急増 → 支出が膨らみ、持続が難しくなる

## 【問いかけ】： 「後期高齢者が増えると、どんな費用がかさむと思う？」 「今後、高齢者1人を何人で支えることになる？」

### 【活動②：世界と比較しよう】（2分）

## （ページ「高齢化率の推移と解説」参照）

## グラフを見てみましょう。スライダーで年を動かすと、日本と他国の高齢化率の推移が見られます。

## 2025年、日本の高齢化率は約30%と世界一

## 2050年には37%超になると予測されています

## 【問いかけ】： 「このまま高齢化が進んだら、税金の使い方はどうなると思う？」 「他の国より早く高齢化が進む日本は、どんな対策が必要？」

## 解説欄の補足コメントを共有しながら、社会保障制度の持続性について考えるきっかけにします。

### 【まとめ】（30秒）

## 講師： 高齢化の進行は、社会保障費の増加につながり、税金の使い方や財政に大きな影響を与えます。

## ◆ 発展活動（時間があれば）

## このあと、自分たちが「税金をどう集め、どう使うか」を考える活動につなげていきます。 社会の変化をふまえて、持続可能な社会をどうつくるか、一緒に考えていきましょう。

## 増え続ける社会保障関係費（INDEX21：所要時間3分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**「今日は、“社会保障にかかるお金”がどうして増えているのかを一緒に考えてみましょう。  
今、国の予算の中で最も大きな割合を占めているのが“社会保障関係費”です。  
では、その理由は何でしょうか？」

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**「画面の説明文にあるように、日本は世界でも類を見ないスピードで高齢化が進んでいます。  
お年寄りが増えると、必要になるのが年金、医療、介護などの“社会保障”です。

ここにある2つのグラフを見てみましょう。」

（※図を指し示しながら）

* **1枚目のグラフ（高齢化率と出生数）**　→「高齢者が増えて、子どもが減っていることが分かります。」
* **2枚目のグラフ（社会保障給付の財源）**　→「社会保障を支えるお金が、税金や借金に頼る割合が増えていることが見て取れます。」

【まとめ】（30秒）

**講師：**「つまり、**支える人が減り、支えられる人が増えている**という構造が、社会保障費の増加につながっているんですね。

この問題は、税の使い道や税負担のあり方にも大きく関係しています。

これから先の社会を支えていくのは、みなさんの世代です。  
『どんな制度が必要か』『どんな負担が公平か』を考えることが、将来の日本を考える第一歩になります。」

## 日本の借金の状況（INDEX22：所要時間15分）

### テーマ：「日本の借金と財政の持続可能性を考える」

### 【導入】（2分）

**講師：**税金はみなさんの生活を支える大切な財源ですが、近年、国の財政は大きな課題を抱えています。  
今回は、「日本の借金の現状」**と、**「将来の財政の持続可能性」について、グラフや他国との比較を通じて考えていきましょう。

### 【説明①：国の借金の全体像を知ろう】（4分）

**講師：**まず、日本の借金はどれくらいあるのでしょうか？  
▶ **2025年度末には、普通国債の残高が1,129兆円に**のぼる見込みです。

これは一人あたりにすると、**約900万円以上**の借金を背負っている計算になります。

覚えておこう：「赤字国債」＝借金して税金以外の方法で支出を賄う仕組み。

また、借金が多いかどうかを判断する際には、**国の経済力（GDP）に対する割合＝対GDP比**が重要です。  
▶ 日本の債務残高は、GDPの**2倍を超えている**という、主要国で最も高い水準にあります。

### 【説明②：国債残高の推移グラフを見てみよう】（4分）

### 📘「日本の普通国債残高の推移」

#### 1. 導入

「さて、ここからは“グラフ”で日本の借金の推移を見ていきます。」

「タイトルにある“普通国債”というのは、国が税収ではまかないきれないときに発行する借金のひとつです。」

#### 2. 内容説明

「グラフには、日本の“普通国債残高”が、どんどん増えていく様子が表れています。」

「例えば、2024年時点では“1,105兆円”。でも、じゃあ10年前は？ 20年前は？ どうだったでしょうか？」

「このページでは、グラフの下にある『年を選ぼう』という操作があります。」

#### 3. インタラクティブ操作

「みんなで年を変えて、数字の増え方を一緒に見てみましょう。」

「年を1990年にしてみると…あ、まだ今よりずっと少ないですね。」

「2000年、2010年…おお、だんだんと急激に増えているのがわかります。」

（→ 画面を見ながら全員で共有）

#### 4. 問いかけと考察

「さて、なぜこんなにも借金が増えてしまったのでしょうか？」

「税収が足りなかった？ 支出が多すぎた？ 高齢化の影響？ みんなはどう思う？」

（→ 生徒の意見を引き出す）

### 【まとめ】（30秒）

「このページでは、日本の借金がどれほど増えているか、そして“長い時間をかけて積み重なってきた”ことがよくわかりました。」

「次のページでは、日本だけでなく、世界の国々と比べたときに日本の借金がどのくらいなのかを見ていきましょう。」

### 【活動③：他国と比べてみよう】（4分）

### 📘 「主な国の債務残高（対GDP比）の推移」

### 【導入】

「前のページでは、日本の借金の金額が増えていることを見ましたよね。」

「今回は、その金額を“他の国”と比べてみます。ただし、単なる金額ではなく、“GDP比”、つまり“経済規模に対してどれだけの借金があるか”を比較します。」

【画像を見ながら説明】

「例えば、年収300万円の人が100万円借金するのと、年収1000万円の人が100万円借金するのとでは、重みが全然違いますよね？」

「それと同じで、国の借金も、その国の経済の大きさと比べて“重いのか軽いのか”を見るのが大事なんです。」

#### グラフの使い方（インタラクティブ説明）

「2024年をクリックして表示してみてください。」

（操作）

「お、グラフが出ましたね。日本、アメリカ、イタリア、ドイツ、フランスなど、いろいろな国が並んでいます。」

「一番高い国はどこかな？ …そう、日本ですね。」

「日本の対GDP比は200％以上！これは、経済規模の2倍以上の借金があるということです。」

「じゃあ、ドイツは？ アメリカは？ この差から何がわかるでしょう？」

「さあ、ここで考えてみましょう。」

「どうして同じ“先進国”でも、国ごとに借金の割合がこんなに違うんでしょうか？」

（→ 生徒から「福祉が多い」「軍事費が違う」「税金の仕組みが違う」などの意見を引き出す）

「国によって、どこにお金を使うか、どう集めるか、政策の違いがあるからこそ、このように差が生まれます。」

「日本はこれまで借金を増やしてでも福祉や経済対策を優先してきましたが、それをどう支えていくのかは私たちの将来に直結しています。」

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**日本の借金がいかに大きく、そして他国と比べて異例であるかがわかりましたね。

このまま借金が増え続けると、将来の私たちやみなさんにとって大きな負担になります。

最後の問いかけ：  
「このままの財政で未来は大丈夫？ 持続可能な社会にするにはどうすればいい？」

「借金を減らすには「税収を増やす or 歳出を減らす」どちらが現実的？」

## 給付と負担のバランスとは（INDEX23：所要時間5分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**「みなさん、“給付と負担のバランス”って聞いたことがありますか？  
簡単に言えば、“国からどれだけ支援やサービスを受けるか”と、“自分がどれだけ税や保険料を負担するか”のバランスのことです。

今日はそのイメージを、スライドを見ながら一緒に考えてみましょう。」

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**

「こちらの図をご覧ください。  
左側には、医療・年金・介護・子育て支援などの“給付”があります。  
一方、右側には、税金・社会保険料などの“負担”があります。

近年は、“給付が増える一方で、負担はどうするか？”という課題が出てきています。  
とくに、高齢化によって年金や医療費が増えていますが、働く世代の人数は減ってきているんです。」

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**「ここでみなさんに問いかけたいのは、  
『このバランス、どうあるべきだと思いますか？』ということです。

* 給付を減らす？
* 負担を増やす？
* それとも、別の方法で仕組みを見直す？

正解はありません。  
でも、“サービスを受ける側”だけでなく、“支える側”としても考えていくことが大切です。

今日のこの図は、そのきっかけとして覚えておいてほしいと思います。」

## プライマリーバランスとは（INDEX24：所要時間3分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**「みなさん、“プライマリーバランス”という言葉、聞いたことありますか？  
今日は、これからの日本を考えるうえでとても重要なこのキーワードについて、基本だけ押さえていきます。」

【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**（カード1の要点）

「まず、プライマリーバランス（PB）とは何か。簡単に言うと、“国が集めた税金などの収入で、借金を除いた支出をまかなえているかどうか”を表す指標です。」

（カード2の要点）

日本は現在PBが赤字。つまり、政策的経費を“借金でまかなっている”状態。

（カード3の要点）

借金が積み重なり、**国の借金（公債残高）は約1,129兆円**にもなっている。

（図を見せながら）

この図は、税収と支出のバランスがどう崩れているかを視覚的に示しています。

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**「“借金でやりくりしている”状態が続くと、将来どうなるか…想像してみてください。

・今の支出を減らす？  
・税収を増やす？  
・それとも…？

“プライマリーバランスを黒字にする”という目標は、将来の世代の負担を減らすためにも大切です。  
今日は、このキーワードだけでもしっかり覚えて帰ってください。」

※授業の続きで議論を深めるなら、「国の借金は悪いことなのか？」というテーマで意見交換に発展させても有効です。

## 累進課税とは（INDEX25：所要時間10分）

### 【導入】（30秒）

**講師：**「今日のテーマは“累進課税（るいしんかぜい）”です。  
普段あまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、**公平な税の仕組み**を考えるうえでとても大切な考え方です。

みなさん、**収入が高い人は低い人よりも多く税金を払っている**というのはイメージできますか？  
でも、それは『たくさん稼いでいるからたくさん払ってね』という単純な話ではありません。  
“累進課税”とは、具体的にどんな制度なのか、一緒に確認していきましょう。」

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**「画面の説明を見てみましょう。日本では、**所得税・相続税・贈与税**などに累進課税制度が導入されています。

つまり、**所得が多いほど高い税率が適用される**という仕組みです。  
例えば、500万円の収入がある人と、1,000万円の収入がある人では、単純に倍払えばいいというわけではなく、**“負担割合”も違ってくる**のがポイントです。

こちらの図では、その累進課税の計算イメージが視覚的に示されています。」

### 【ワーク説明】（1分）

**講師：**「それでは今から、**4つの問い**について、それぞれ自分の考えを書いてみましょう。」

質問項目：

1. 所得が1,000万円の人の税額は？
2. 500万円の人と比べてどうか？
3. なぜ累進課税制度があるのか？
4. なぜ多くの種類の税があるのか？

### 【ワーク】（5分）

**講師：**「今から5分間、画面の入力欄に考えを自由に書いてみてください。  
例も表示されていますが、自分のことばでまとめてみましょう。」

（声かけ例）

* 「1,000万円の人と500万円の人で“金額”だけじゃなく“割合”も違うのはなぜだろう？」
* 「税の種類がたくさんあるのは、どんな立場の人にも“公平”になるように工夫されているからかもしれません。」

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**「では、いくつかの意見を共有してみましょう。」

（希望者やランダム指名で）

* 「どんな理由で“累進課税は必要”と考えましたか？」
* 「税が多種類あることのメリット・デメリットは？」

**講師：**「“たくさんもらっている人は多く負担する”、これは一見フェアに思えますが、  
“どこまでが妥当か”を考えることも大切です。  
累進課税は、**所得格差の是正**や**税の公平性**を支える仕組みの一つです。

今日の学びを通して、皆さんが納税者になったときにも、自信を持って税について考えられるようになってくれたら嬉しいです。」

**税を通して選挙を考えよう（INDEX26：所要時間20分）**

### 【導入】（1分）

**講師：**「みなさんは、選挙が自分に関係あると思っていますか？  
今日は“税金”という視点から、選挙と政治について考えてみましょう。

来月、A市で市議会議員選挙が行われると仮定して、  
実際の候補者のように『政策』と『不足財源の確保方法』が提示されています。」

### 【画像を見ながら説明】（2分）

**講師：**「画面には、A市の現状や候補者の公約が表示されています。  
また、その下に意見を記入する欄があります。  
今日の目標は、“自分の立場から候補者の公約を評価して、最終的に誰に投票するか決める”ことです。」

### 【ワーク①：候補者の政策・財源評価】（6分）

**講師：**「まず最初の表は、各候補の『長所』と『短所』について考えるワークです。

それぞれの候補について、

* どんな政策が魅力的か（長所）
* 逆に、実現性や公平性に課題はないか（短所）  
  を記入してください。」

（必要に応じて例を口頭で補足）

### 【ワーク②：立場別の視点で評価】（6分）

**講師：**「次の表では、**“さまざまな立場”から公約を評価**してみましょう。

立場の例：

* 若者（進学・就職の不安）
* 成人男性（仕事・経済政策重視）
* 成人女性（子育て・生活支援）
* 高齢者（医療・福祉の充実）

それぞれの視点に立って、どの候補がどんなメリット・デメリットがあるかを書いていきましょう。」

（声かけ例）

* 「この政策は、子育て世代にとってどう映る？」
* 「財源の確保方法は、若者にも負担がくる？」

### 【ワーク③：投票と理由】（3分）

**講師：**「最後に、“あなたなら誰に投票するか”を決めてください。

* 誰を選ぶか
* その理由（政策、姿勢、財源の考え方など）
* グループで共有した感想や気づき（他の意見で参考になったことなど）

ここまでの意見をもとに、自分の考えをまとめましょう。」

### 【まとめ】（30秒）

**講師：**「では、いくつか発表してもらいましょう。」

（発表例）

* 「Y候補の教育政策に共感した、でも財源が弱そうという声もあった」
* 「Z候補は高齢者向けだけど、全世代への配慮があって好印象という意見も」

**講師：**「選挙は、税金の使い道を決める最も身近な手段です。  
“誰に投票するか”を考えることは、“自分のお金や未来の社会のあり方”を考えることにもつながります。

ぜひ、これから選挙に参加するときにも、今日の視点を思い出してくださいね。」

※意見は「画像として保存」ボタンで記録可能です。

**日本の将来と税金を考える（INDEX27：所要時間5分）**

### テーマ：「日本の将来と税金を考える」

### 【導入】（1分）

**講師：**みなさん、ここまでの授業で、税金の仕組み、使い道、国や地方の予算などについて学んできました。

では、**これからの日本の未来**を考えるときに、税金はどうあるべきなのでしょうか？  
今日のまとめでは、今の日本が抱えている「課題」を整理しながら、**将来の税金のあり方**を一緒に考えていきます。

### 【画像を見ながら説明】（2分）

（画面に表示されている6つの吹き出しを順に確認）

🟦 **経済成長の停滞**

* 長く続いたデフレ、景気がなかなかよくならない
* 税収が思うように増えない原因にも

🟪 **経済のグローバル化**

* 海外との競争が激しくなり、企業の利益も海外に移動
* 税制の見直しや国際的な協力が求められる

🟩 **財政赤字と公債残高の増加**

* これまで見てきたとおり、借金が1,000兆円を超える水準に
* 将来の世代への影響も心配されています

🟨 **少子高齢化の進行**

* 社会保障費は今後ますます増える見込み
* 働く人が減り、税金を支える人も少なくなる

🟥 **雇用環境の変化**

* 非正規雇用や外国人労働者が増え、安定した税収が見通しにくく

各課題はすべて、**税金の集め方・使い方**に深く関係しています。

### 【まとめ】（2分）

（下部の青枠「summary」に注目）

**講師：**このまとめにも書かれているように、「税金を考えることは、日本の未来を考えること」につながっています。

🗣【問いかけ例】

* みなさんが大人になったとき、**どんな社会であってほしい**ですか？
* 「国民の負担と受益（サービス）」のバランスは、どうあるべきだと思いますか？
* みなさんがこの中で、特に気になる課題はありますか？→ 少し意見を聞く。「少子高齢化」「経済の停滞」などキーワードを拾う

🗣【まとめ例】

* 税金は「ただ取られるもの」ではなく、**未来をつくる手段**でもあります。
* たとえば、少子高齢化が進むと、働く人が減って、お年寄りを支える人が少なくなります。その分、税金で支える仕組みがもっと大変になるんですね。
* 税金を考えるということは、ただ払うかどうかの話ではありません。
* どこに使うのか、どう負担するのか、そしてどんな社会を作りたいのか・・・そうしたことすべてが関わってきます。
* このページの最後に、『税金を考えることは、日本の将来の姿を考えることにも通じます』とあります。まさにそのとおりですね。

## ◆ 発展アイデア（任意）

* グループで「未来の税金」をテーマにミニ討論
* 自分の考えをポストイットにまとめて掲示
* 「○年後の社会と税金」をテーマにミニ作文